

# 彼方 【かなた】

校長通信  
H25.10.22  
Vol.20

【チーム湖北！8位入賞！】



「やったぞー！」晴れやかでさわやかな凱旋でした。

野田市陸上競技場まで愛おしく抱きかかえ、開会式で返却した八位入賞の盾が、湖北中選手の手元に戻って来ました。昨年度と同じ盾ですが、その内容は全く違っていました。

昨年度は、県大会や全国大会に出場するような強い選手がいるチームでした。ある程度上位の順位を目指すのは当然であり、しかもそれが十分可能なチームでした。しかし、今年度のチームは、九月末に行われた葛南駅伝大会の結果を考えると、入賞をねらうには大変厳しいというのが正直なところでした。葛南駅伝で七位という成績の我が湖北中のタイムは、同じコースで大会を行った柏地区の結果に照らし合わせてみると十数番になってしまいました。松戸、野田、流山の強豪校を加えれば、本校を上回るチームは三十校前後は確実にいる状況だったのです。昔から顧問の間では葛南大会の順位を三倍から四倍すると東葛駅伝の順位だと言われていました。葛南大会七位ですからよくて二十一番前後、悪ければ二十八位前後という結果が予想されるのです。その時点での湖



北中の十位入賞は「夢のまた夢」だったわけです。

午前十時、号砲一発！第六十七回大会

スタート。一区は駅伝部のまとめ役、部長の片桐選手でした。トップから大きく引き離されることなく団子状態で二区の関選手に襷をつなぎました。関選手は昨年度の経験もあり、しっかりと自分の力を発揮し二十二位まで順位を上げて、三区三年生の北条選手につなぎました。バスケット部から参戦した北条選手は、自己ベストの走りをし、一気に十四人抜きを果たし、八位まで順位を押し上げ、エース区間の四区三塚選手につなぎました。前半の三年生の走りを五区以降の選手がよく守り抜きました。結果は、一時間四十二分四十二秒、八位でのゴールでした。普段はそんなに感情を表にあらわさない冷静な片桐部長も満面の笑みでゴールの中部小学校のグラウンドで仲間と共に喜び合いました。

結果には原因がつきものですね。この好結果をもたらしたものは何だったのでしようか？それは思いの強さだったと思います。

葛南大会でもうひとつパツとした結果が得られず、不完全燃焼だった感はありません。強い先輩がいなくなった後、自分たちには無理かなとか、これでいっぱ



い、いっぱいというよ  
うな諦め感があつた  
ような気もしました。  
頑張っていないわけ  
ではないけど、何と

く盛り上がらない、淡々とした練習や試合が続いていました。そんな時、二年生の強化選手が学年の先生方から自転車の乗り方等で指導を受けることがありました。二年生の行動のゆるみは、チームの緊張感のなさを現れだったので。色々な先生方に指導され、気持ちを入れ直すことができました。チームの練習が明らかに変わりました。挨拶の声、仲間同士で励まし合う言葉、必死な姿、どれもが二週間前とは比べものにならないくらい変わったのです。気持ちがついていくとこんなにも人間は変われるのだということを見せてくれたのです。

補欠の選手や学級の仲間の支え、先生方、保護者の皆さんの援助が実を結んだ一日でした。まさに湖北中学校がひとつになり、チームとして頑張った一日だったと思います。

夢は見ないと実現できません。見ているだけでも実現できません。思いの強さが行動の変化となって現れたときに、夢が現実になり、改めて教えることも楽しい一日でした！

